

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	コベルプラス富山中央教室（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	2025年 7月 4日		～	2025年 8月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55人	(回答者数)	29人
○従業者評価実施期間	2025年 7月 2日		～	2025年 7月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 8月 25日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子供たちが快適に過ごせる、構造化された清潔な環境整備	広々とした活動スペースの確保やバリアフリー化、清潔維持、活動に合わせた空間作り、個別利用可能な部屋の提供など、子供の特性と快適性を重視した環境作りを行っています。保護者からも手洗い場が清潔であると評価されています。	現在の質の高い環境に加えて、より個々の子供の感覚特性（例：特定の音や光への配慮）に合わせた環境調整に関する保護者からの意見を定期的に収集し、改善に活かす仕組みを強化します。
2	個別アセスメントに基づく質の高い計画作成と、チームによる支援	個々のアセスメントを適切に行い、児童発達支援計画を作成・公表し、計画に沿った支援を行っています。日々の支援記録を最優先で実施し、支援開始前には職員間で必ず打ち合わせを行い、チームで連携して支援を進めています。	指導員間の知識や専門性のばらつきに関する保護者からの意見に対応するため、個々の指導員が専門性を高めるための継続的な研修機会を増やし、情報共有をさらに充実させ、指導の質を均質化するべく努めます。
3	保護者との密接で丁寧なコミュニケーションと多角的な情報発信	運営規程や支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行い、家族からの子育ての悩み相談にこまめに対応し、必要な助言と支援を行っています。公式LINEやHP、SNS等を活用し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を迅速に発信しています。また、障害特性を踏まえた視覚提示や部分的サポートで意思疎通を図っています。	現在の丁寧な個別コミュニケーションに加え、父母の会活動の支援や保護者会等の開催を通じて、保護者同士やきょうだい同士が交流する機会をさらに設けることで、横のつながりも支援し、より包括的な家族支援への取り組みに努めます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の配置不足と専門性のばらつき	慢性的な人員不足に加え、職員間の専門知識や経験の差が大きく、支援の質に一貫性が持たにくい状況が考えられます。保護者からは「もう少し人数がほしい」「指導員によって求めるレベルが異なる」との意見があります。	採用活動を強化し、必要に応じて作業療法士や言語聴覚士等の専門職の配置を検討します。職員間の定期的な知識・情報共有会を設け、OJTを強化することで、指導の質の均質化を図り、専門性の向上に努めます。
2	地域社会との連携・交流機会の不足	地域住民を招く事業所独自の行事がなく、地域内の他機関や他の子どもたちとの交流機会が不足しているためです。	地域のイベントへの積極的な参加や、地域の他の子どもたちが参加できるようなイベントも考慮していきます。地域住民を対象とした事業所見学会や体験会を定期的で開催し、地域に開かれた事業運営を目指します。
3	子どもの意向把握の困難さ	子ども自身の意思表示を促す専門的アプローチやツールが不足しており、保護者からの情報が主となっているためです。	視覚提示（ボードや絵カードなど）や部分的サポートなど、子どもの特性に応じた意思疎通のための工夫を強化します。子どもが自分の意向を表現できるような遊びや活動を積極的に取り入れ、職員の専門性を高める研修の導入を考慮します。